

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

小 林 克 之

○福島県会津若松市

上水道事業の包括的民間委託事業について

【所 見】

毎日、生活をする上で当たり前のように水を使っている。人が生きていく上で、なくてはならないものであるにもかかわらず、無駄に使っていることもある。全国どの地域でも、安心して使える安全な水を供給する取り組みを行っているはずである。十分な水量の確保、安全な水にするための施設、供給するための配管施設、そして維持管理・修繕していくための財源の確保、利用者からの使用料の徴収業務など多くの業務をこなすため、多くの業者や人員の確保が必要である。今回の視察で改めて、水道業務の大切さと重要さを考えさせられた。

会津若松市では、昭和4年に水道での給水を開始した。その後、合併や社会情勢の変動により10回の拡張事業を経て現在に至っているとのことであるが、施設等の老朽化が顕著となり老朽管更新事業等に取り組むため、平成20年に経営改善策検討委員会を設置した。平成19年度以降、大口利用工場の移転や人口の減少などで使用水量と料金収入が減少し、経営改善策検討委員会からの提言を受け、事業の見直しをすることになった。提言の要点としては、各業務を委託することにより経費が年間に1億3,700万円程度削減でき、先進技術の導入や創意工夫の反映が生かされるとのことであった。そして、それらの提言を受け委託の方向で検討に入り、第三者委託制度を導入した。浄水場の運転管理業務はさまざまな浄水方式に対応できる能力を持つ大手の事業者、送・配水施設の維持管理等業務は、地元の経験を活用できる事業者を選定し、料金徴収に関しては実績のある事業者へ委託した。民間のノウハウなどを活用し、安全に使用できる水の確保・供給に取り組んでいる姿がうかがえた。

さらに、今後の災害への備えとして各受託者と災害協定を締結しているとのことであり、参考にしていきたい取り組みであった。

○福島県郡山市

郡山市の認知症施策について

【所見】

郡山市の人口は平成 28 年 9 月末で 32 万 7,022 人であり、高齢化率は 24.22% である。足利市の高齢化率は平成 27 年 10 月時点で 29.57% である。全国的にも高齢者人口は増加しており、高齢者に対する福祉の対応の充実が急がれている。郡山市では、地域包括ケア推進課で地域包括ケア計画をつくり、その中の基本方針に地域包括ケアシステムの構築があり、認知症施策の推進を掲げている。郡山市の認知症施策の取り組み状況は、平成 18 年度の認知症予防教室から始まり、家族介護教室を実施したり、介護マークの交付開始や認知症カフェ設置・認知症初期集中支援チームを病院に設置したりして、地域や医療・介護施設と一体になって進めている様子が見える。

取り組みの中では、認知症支援ガイドブックをつくり認知症の人の家族や周囲の方々にも適切な支援の流れを紹介している。また、認知症初期集中支援チームをつくり、チーム員が家族訪問を行い地域包括支援センターと協力・連携をして本人や家族のサポートをしている。支援チームは 3 カ所あり、チーム員は医療・保健福祉に関する国家資格と認知症ケアの実務経験等を持っているとのことである。しっかりとしたスタッフで対応していると感じた。また、徘徊をする恐れのある高齢者に、衣服等に貼りつけることで身元が確認できる QR コードを配布している。現在は 30 名が登録しているとのことであり、行方不明になった高齢者を発見したときに、スマートフォンなどで連絡先が読み取れる仕組みになっている。さらに、認知症高齢者 SOS 見守りネットワーク・認知症サポーター養成講座・認知症カフェ事業を実施するなど、取り組みの充実を図っている。予防が大切であると担当者が話していたが、これから間違いなくふえる高齢者の健康維持、認知症の防止対策などしっかりと取り組んでいくべきだと感じる。家にこもらないで、できる限りカフェなどに参加して楽しく暮らせる生活ができる地域にしていければと感じた視察であった。